平成28年度　研究サマリー

研究会名称	ATTEST-K	
代表者所属	神奈川県内科医学会	
代表者氏名	湯浅章平	印

研究方法・結果

〈研究方法〉

神奈川県内科医学会に所属する医療機関（循環器標榜医）のうち研究に参加した52施設の2型糖尿病530例を対象に後ろ向き観察研究を行った。主要評価項目としてシタグリプチン投与前、3、6、9、12か月の診察室血圧（OBP）、家庭血圧（HBP）、それぞれの脈拍の推移を検討した。また、副次評価項目として血糖値、HbA1c、体重、総コレステロール（TC）、LDL-C、HDL-C、中性脂肪（TG）、血清クレアチニン、糸球体ろ過量（e GFR）の推移を検討した。研究登録期間は2012年9月30日から2013年10月31日までで、推計学的検討にはSAS ver9.2を用いた

〈結果〉

登録患者530例のうち、診察室血圧未測定の37例とシタグリプチン未投与の1例、試験期間中に降圧薬が変更されていた38例を除き、454例を解析対象とした。また、共変量解析は欠損値を認めた70例を除外し、診察室収縮期血圧（OSBP）444例、診察室拡張期血圧（ODBP）384例を対象とした。OSBPはベースラインと比べ6、12か月で有意に低下し、ODBPは3、6、9、12か月の全経過で有意に低下した。診察室脈拍（OPR）には有意差を認めなかった。OSBP、ODBP、OPRについて共変量解析を行うとOSBPに影響を及ぼす因子は「性別」、「高血圧治療薬併用の有無」、「シタグリプチン投与前の血圧値」、ODBPに影響を及ぼす因子は「年齢」、「高血圧治療併用の有無」、「喫煙の有無」、「シタグリプチン投与前の血圧値」であった。上記因子で補正後もOSBPは6、12か月、ODBPは6、9か月で有意差がみられた。また家庭血圧は早朝家庭拡張期血圧（MHDBP）で6か月、就寝前家庭拡張期血圧は6、12か月で有意に低下した。早朝家庭収縮期血圧（MHSBP）も6か月後に有意差がみられたが、就寝前家庭血圧（EHSBP）には有意差はみられなかった。OSBP、ODBPについてはシタグリプチン投与直後ではなく6か月以上経過したのち、数mmHgの低下を認めた。MHSBP、MHDBP、EHDBPも一部の期間に有意差がみられた。HA1c、血糖値、TC、LDL-C、TGは全経過とも有意差がみられた。体格指数（BMI）については全経過で有意差を認めなかった。

研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）

第37回高血圧学会総会で発表

1. Yuasa S, et al. Primary care-based investigation of the effect of sitagliptin on blood pressure in hypertensive patients with type 2 diabetes. J Clin Med Res. 2017; 9: 188-192.

2. Yuasa S, et al. Factor analysis of changes in hemoglobin A1c after 12 months of sitagliptin in patients with type 2 diabetes. J Clin Med Res. 2016; 8: 461-471.